

SFC STUDENT AWARD

※過去10年度分を掲載しています。

2018年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士課程3年	花房 真理子	・日本文化政策学会の学会誌『文化政策研究』第11号に、査読付論文(熊坂賢次名誉教授との共著)が掲載された。 ・上述の査読付論文を、調査対象地域である富山県南砺市の全5図書館に寄贈した旨が、富山新聞(2018年8月21日、朝刊、31面)にて報道された、 ・こうした活動が評価されて、知的財産管理に係る国家資格「知的財産管理技能士」の有資格者団体・知的財産管理技能士会にて、「2018年度奨励賞」を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	豊島 有香	①画像データおよび時空間データ処理技術により、自然環境、特にマイクロプラスチック問題の解決に向けた研究活動を行い、国際会議での論文発表2件、国内会議での論文発表2件を行い、高い評価を得た。 ②研究成果を国連アジア太平洋経済社会委員会(UN-ESCAP)により採用されている環境分析システム5D World Map Systemの機能として実装しようと試みた。
政策・メディア研究科 修士課程2年	中宿 文絵	・上皮間葉転換(EMT)は、がんの悪性化に寄与することから治療標的として注目されており、EMTの機能に寄与する代謝機構を明らかにするため、網羅的な代謝解析を行った。 ・その結果、ヒト肺がん細胞におけるEMTではアミノ酸代謝が変化しており、抗がん剤耐性やがん転移に重要な代謝関連遺伝子を同定した。 ・本研究成果を「第6回がん代謝研究会(＠奄美大島) http://toursakai.heteml.jp/for-you-service.info/gan2018/index.html 」で発表し、86演題中、ポスター賞金賞(1位)を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	藤岡 華子	①文脈解釈機構を有する意味空間生成技術とIoT・ビッグデータ分析技術の融合により、実用的な地球環境・災害事象分析システム構築を行い、国内外で高い評価を得た。 ②上記①について、国際論文誌2件採録、国際会議での論文発表3件、国内会議での論文発表3件と、精力的な研究活動を行い、国際的な情報発信を行った。
政策・メディア研究科 修士課程2年	岩井 碩慶	・社会寄生種であるトゲアリの新女王が行う馬乗り行動には、宿主アリの巢仲間識別フェロモンを偽装する役割があることを解明。 ・上記の研究成果を「第9回国際ハチ目学会(9th Congress of International Society of Hymenopterists)」にて発表し、Student Poster presentation awardを受賞。 ・加えて、「第7回生命医薬情報学連合会退会(Information in Biology, Medicine and Pharmacology 2018)」においても上記の研究成果を発表し、優秀ポスター発表賞を受賞。
総合政策学部3年	三上 洋一郎	内閣府「人生100年時代構想会議」への最年少有識者委員として参加したこと。 今後の大学や働き方のあり方に大きな影響を持ちうるこのコンセプトに対し、現役の大学生であり同時に経営者でもある10代の候補者が、若者の代表として意見を反映させることができたのは、大きなインパクトをもたらしたと言える。また10代にして日本の未来を変える場へと踏み出し、また確固たる哲学を持ちながら、そこへ至るまでの積み重ねを欠かさなかった姿勢は、塾生としての模範を示すものである。
環境情報学部4年	井上 ひかる	・学部1年次より腸内細菌叢－宿主免疫システム間相互作用に関する研究に取り組み、今年度は本相互作用に基づく新たな解析技術を確立した。 ・確立した技術は本研究分野の発展に貢献するだけでなく、腸内細菌叢制御に基づく疾患治療といった臨床応用への実用化が期待される。 ・第58回生命科学夏の学校(日本生化学会・JST後援)にて、これまでの研究成果について題目「腸内細菌叢感作がもたらす宿主免疫応答の理解」でポスター発表を行い、若手発表賞を受賞した。
環境情報学部4年	竹内 奈穂	・「太らない砂糖」として着目される希少糖の摂取による腸内環境の変化を網羅的に解析した。その抗肥満効果のメカニズムに、新規の腸内細菌の増加が関与する可能性を初めて示唆した。 ・東京大学で開催された国際学会 Asia-Pacific Nutrigenomics and Nutrigenetics Organization 2018 Biennial Conferenceにおいて口頭発表し、国内外の優秀な研究者を抑えて Best Oral Presentationを受賞した。 ・研究活動が朝日新聞に掲載された。 ・その他、国際学会1件、国内学会6件でポスター発表を行うなど、国内外で高い評価を受けた。
環境情報学部4年 (代表者)	藤木 良祐 (代表者) 受賞団体名: Team FOX	・ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて、斎藤・藤木・天野が製作したFOXが3名の審査員により選考される“Most Creative”の1位、“Most Creative Award”を受賞した。 ・またさらに、そのコンテストの中で、学会参加者の投票によって決まる“People’s Choice”の1位である“People’s Choice Award”も受賞した。
環境情報学部4年 (代表者)	渡辺 基暉 (代表者) 受賞団体名: Team VoiSports	・ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて、渡辺・富澤・坂田が製作したVoiSportsが3名の審査員により選考される“Most Creative”の2位、“Honorable Mention”を受賞した。
環境情報学部4年 (代表者)	伊藤 光平 (代表者) 受賞団体名: 日本の都市環境メタゲノム調査プロジェクト「GoSWAB」	・糸素酸還元能を持つRhodococcus sp.Br-6のゲノム解析論文がJournal of Genomics誌に掲載された。 ・経済史Forbesの選ぶ世界を変える30歳未満の30人「30 UNDER 30」に選出された。
環境情報学部4年	栗川 開	・岩手宮城内陸地震で被災した「駒の湯温泉」の復興に3年にわたって尽力してきた。 ・被災10年となる2018年が開湯400年となることを発見し、その歴史を大量のインタビューと詳細な文献調査によって丹念に掘り起こし、これを冊子にまとめて復興のメルクマールとした。 ・これらの取り組みは広く注目を集め、朝日新聞、毎日新聞、NNN、NHKなど多くのメディアに報じられ、「駒の湯温泉」の復興を広く伝えることに貢献した。現在、400日目で活動を終わらず、さらなる展開を企画している。
環境情報学部3年	酒井 彩乃	・高度好熱菌の国際ワークショップ International workshop on “50th anniversary of Thermus thermophilus discovery”にてポスター賞(Poster Presentation Award)に選ばれた。

2017年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士2年	ラフマワシ イレネ エルリン W.	①研究活動成果: 国際論文誌における研究成果論文発表2件、国際会議における研究成果論文発表5件(内、1件はBest Paper Award受賞) ②特筆すべき対外活動: 国際シンポジウムへの慶應義塾大学院生代表としての参加、国際研究機関でのインターンシップと共同研究実施、国連SDGsワークショップヘリデーディング大学院GESLプログラム選抜学生として参加 ③実用的システムの構築
総合政策学部4年 (代表者)	今井 隆文 (代表者) 受賞団体名: Team FLEXA	ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて今井隆文、毎熊優介、長谷川龍哉が制作したFLEXAがMost Creative Award (Honorable mention)を受賞した。ほとんどの参加チームが大学院生からなるコンテストにおいて受賞したことは、学部から研究活動に勤しむSFCらしい成果である。またこの制作は今井および毎熊の卒業プロジェクトとは別に行われたものであり、その努力は讃えるべきものである。
総合政策学部4年	べ田 祐奈	・駐日韓国大使館韓国文化院と神田外語大学主催、駐日韓国文化院世宗学堂共催で開催された「話してみよう韓国語」東京・学生／一般「全国学生韓国語スピーチコンテスト」のスピーチ部門で、最優秀賞を受賞した。 ・大学で入門・初級－中級－上級と段階ごとの朝鮮語教育を受けたわけではなく、独学をベースとして学習を進めてきた学生が最優秀賞に至ったのは、極めてまれなケースといえる。 ・また当学生は過去にも毎年のように朝鮮語に関する活動で成果を上げており、今回の受賞はこうした一連の努力の結果であり、特筆に値する。

所属	受賞者(代表)	受賞内容
環境情報学部4年	永田 祥平	・数千種に及ぶ大規模なヒト免疫不全ウイルス(HIV)ゲノム解析により、その進化の様相を可視的に明らかにし、ウイルス系統が様々なグループへと分化していく際に重要となる酵素上の領域を特定した。 ・本研究成果をまとめた論文が「Frontiers in Microbiology」誌に掲載された。
環境情報学部3年 (代表者)	伊藤 光平 (代表者) 受賞団体名:日本の都市環境メタゲノム調査プロジェクト「GoSWAB」	・東大オンラインメディア「UmeeT」、慶應 SFC オンラインメディア「SFC CLIP」での特集、国際学会「3rd Annual Conference on MetaSUB」、国内学会「生命医薬情報学連合大会」でのメンバーのポスター発表。 ・高校生と高校でのサンプリングを行い、地元の新聞紙「荘内日報」で取り上げられた。 ・HPを作成し、活動を学外にも広め1年で10箇所以上500サンプルを集めた。
環境情報学部3年 (代表者)	金子 紗由香 (代表者) 受賞団体名:Team BHD	・2016年5月より、若年女性向け基礎体温記録手帳「BEAUTY & HEALTH DIARY」を開発し、それを用いて東京都・神奈川県の高校大学計5校で健康教育及び調査を実施(2018年2月に一般向けに出版・販売予定)。 ・高校大学で調査したデータを解析し、2017年日本学校保健学会第64回学術大会にてポスター発表。同じく2017年第32回日本女性医学学会学術集会にてポスター、口頭発表。口頭発表は日本女性医学学会の推薦を頂戴し、論文掲載予定。 ・新宿ルミネスト店にて、社内セミナーを実施。神奈川県主催の健康イベントに参加。 ・2017年4月、「神奈川県東病女子アンバサダー」に任命され、神奈川県を中心として健康情報を発信。 ・国立成育医療センターと共同で、若年女性の健康意識改革に取り組み、2017年プレコ(プレコンセプション・ケア)として全国の若年女性向けの健康意識改革を展開。 ・活動内容が朝日新聞、読売新聞、神奈川新聞、慶應塾生新聞、からだにいいことpreco、その他ラジオやwebメディアで取り上げられた。
看護医療学部4年	小林 可奈	①研究会・所属教室ですでに取り上げられていたテーマではなく、推薦学生が独自に発案し、2年近くの準備期間を経て、単身インドに向いて実施し、まとめた研究成果である。 ②デリー郊外の住宅街において突出して高い予防接種率が見られる背景には、無償化などの医療政策のみならず、医療者による対象者(子どもとその保護者)への密接な関わり方という重大な要因が存在していることを検証した。 ③上記研究成果を(日本国内で開催された)国際学会で発表した。全279演題のうち、学部生単独での発表は9題のみ、さらにその中でも海外でのフィールドワークに基づく実践研究の成果を報告したものは2題に過ぎなかったことから、当該発表の希少性が窺える。
看護医療学部3年 (代表者)	佐藤 彰恵 (代表者) 受賞団体名:My Own Place ～成長に愛を～(MOP)	・子どもの居場所作りを目的に、食事を提供したり、勉強を教えたりするといった社会的意義のある活動をしている。 ・本団体の活動は高く評価されており、日経新聞やTBSラジオ等、様々なメディアで取り上げられている。

2016年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士1年	坂村 美奈	・2016年10月にニューヨークで行われた国際会議MobiCom2016内で開催されたモバイルアプリコンテストACM MobiCom 2016 Mobile app Contest で研究開発したモバイルアプリケーション「Lokemon」が優勝した(Mobicomは、アメリカ計算機学会(ACM) SIGMOBILEが主催する、モバイルコンピューティングと通信に関する世界最高峰の国際会議で、今年で22回目の開催)。 ・今回の優勝は、日本人としては初めての快挙。 ・モバイルアプリだけでなく、「Lokemon: Location-specific Monsters as a Sensor」という論文も口頭で発表され、高い評価を受けた。
政策・メディア研究科 修士1年	渡部 翔	・ビフィズ菌は大腸がんや腸管病原性の疾患の予防効果を持つことで近年注目されている。渡部君は、ビフィズ菌の腸内定着メカニズムを解明するために、網羅的に腸内細菌のゲノム解析を行った。 ・その結果、ヒトの腸内に棲息しているビフィズ菌の種類は個々人によって異なり、各個人の腸内環境に大きく左右されることが示唆された。 ・この研究成果は上海で開催された国際学会MetaSUB conferenceにおいて発表し、Travel Awardを受賞した。
総合政策学部4年	城内 香葉	・平成28年度日本学生支援機構優秀学生顕彰の文化・芸術分野において大賞を受賞。以下に掲げる国際的なコンクール等で入賞以上の成績や、日本を代表する全国的規模のコンクール等で特に優れた成績を収めたことが評価された。 ・第11回日台文化交流青少年スカラシップ 作文部門 優秀賞 ・NRI学生小論文コンテスト2014 大学生の部 大賞 ・第60回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 一般の部 最優秀賞
総合政策学部4年	千葉 佳織	・2016年11月に開催された第61回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 一般の部において、準優勝(優秀賞)の成績を収めた。 ・本人は、大学時代を通じて本大会に出場しており、2013年度に準優勝、2014年度には最優秀賞を獲得している。これらの積み重ねのうえでの今年度の実績は、非常に意義が大きいと考える。
環境情報学部4年	夏川 遼生	・本人が2年次より継続している都市域のオオタカの研究をまとめた論文が、猛禽類に関わる最も代表的なジャーナルである「Journal of Raptor Research」に掲載されることになった。ゼロからフィールドワークを始め、短期間で国際誌に掲載されるまでの実力をつけたことは、学部生としては顕著な実績である。 (論文名: FACTORS AFFECTING BREEDING SITE SELECTION OF NORTHERN GOSHAWKS AT TWO SPATIAL SCALES IN URBANIZED AREAS)
環境情報学部4年	引地 志織	・国際的トップカンファレンスであるIEEE 11th International Conference on Semantic Computing (IEEE ICSC 2017) にFull paper採録および研究発表(2017年1月30日～2月1日発表)。 ・国際論文誌1件採録、国際会議での論文発表2件、国内会議での論文発表2件と、データマイニング分野と生命科学分野という異分野を融合した研究活動を行い、国内外で高い評価を得た。
環境情報学部4年	吉田 桃子	本人がデザインと制作に取り組んでいる、江戸切絵図の図式で現代の都市空間を描画する「現代の切絵図」が、国土交通省国土地理院が主催する地理空間情報活用推進イベント「G空間EXPO」内で開催されたGeoアクティビティコンテストにおいて、企業・学校を含む全国からの応募の中、審査員の投票2位となり「審査員特別賞:地図デザイン賞」を受賞、地理情報系の多くのメディアで報道・紹介された。 ・2016年度日本生活学会全国大会でその制作プロセスを口頭発表して好評を得た。 ・2016年度日本生活学会研究助成「生活学プロジェクト」の助成に採択された。 ・新しい地図表現によって現代の都市を批評的に読解するという視覚芸術活動として、雑誌「東京人」、デザイン雑誌「コンフォルト」に掲載・紹介された。
環境情報学部4年	岩井 碩慶	・ケンランリスアブは絶滅危惧II類に指定されている希少種であり、本種の生態や幼生の形態に関する情報はこれまで得られていなかった。本研究のフィールドワークによって、ケンランリスアブは幼生期をアリの子の中で過ごすことが明らかにされた。 ・今回得られたケンランリスアブの生態学的知見、および幼生の形態学的知見は、本種の保全につながると期待される。 ・このことをまとめた論文が「Biodiversity Data Journal」誌にPublishされた。
環境情報学部2年	伊藤 光平	・ヨウ素は人間にとって必須の物質で、体内では甲状腺ホルモンの構成成分として重要な役割を担っている。また、日本はヨウ素の生産で南米チリに次ぐ世界シェア2位を誇っており、特に千葉県房総半島のヨウ素埋蔵量は世界最大規模である。千葉大学の天知らが海洋環境から発見した土壌微生物Arenibacter C-21株は、ヨウ素を細胞内に蓄積することが知られている。 ・本研究では、この興味深い環境微生物の全ゲノム配列を決定し、データベースへの登録、遺伝的特徴(GC含量、遺伝子数、塩基対数)の解析を行った。 ・この研究をまとめた論文が「Genome Announcements」誌にPublishされた。
看護医療学部4年 (代表者)	難波 英里 (代表者) 受賞団体名:大谷研究会 「眼鏡型ウェアラブルセンサーを用いた動作解析プロジェクト」	・看護医療学部4年の大谷研究会のプロジェクトに参加した4名がチームを組み、各自の身近な疑問(clinical question)をスタートとして協力しながらresearch questionに落とし込み、眼鏡型ウェアラブルセンサーをうまく活用して自分が一番知りたかった事に解を見つけた点。 ・得られたそれぞれの新知見は、すぐに現場に応用可能で、スポーツパフォーマンスの向上、柔道の重度外傷予防、手話の上達の早期化、安全に歩ける厚底靴の高さなど、具体的な成果が期待できる点。

所属	受賞者(代表)	受賞内容
----	---------	------

2015年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士3年	山田 育矢	今年開催された二つの国際的に著名な情報科学におけるコンペティション(下記)において、二位以降に大差をつけて優勝した。 ・International World Wide Web Conference (WWW)というウェブに関する最も権威のある国際会議において開催された「Named Entity rEcognition and Linking (NEEL) Challenge」 ・自然言語処理に関する最も権威ある国際会議の一つであるThe Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL)において開催された「Workshop on Noisy User-generated Text Shared Task #1」
政策・メディア研究科 博士2年	ヴェッソンマイ チャリサ	・国際論文誌における研究成果論文発表1件、国際会議における研究成果論文発表2件(内、1件はBest Paper Award受賞) ・実用的システムの構築
政策・メディア研究科 修士2年	西野 偉彦	・2015年7月、「第34回 昭和池田賞」(主催:公益財団法人昭和池田記念財団、後援:文部科学省)を受賞。SFCでは初、慶應義塾大学では5年ぶり3人目。受賞論文は「18歳選挙権に伴う主権者教育に関する研究」。 ・同年11月、ORF2015・湘南藤沢学会主催の「第13回研究発表大会」で優秀賞(第3位)を受賞。 ・同、「科学研究費補助金」基盤研究(A)(平成26～29年度)「多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究」主催シンポジウム「政策から考えるシティズンシップの教育」の共同企画者を務めた。 ・「18歳選挙権と主権者教育」の研究者・実践者として、取材や高校等での講演・授業依頼を多数受けた。
政策・メディア研究科 修士2年	小林 優一	・2015年4月、世界経済フォーラム(通称ダボス会議)の33歳以下の国際組織「グローバル・シェイパーズ」へ選出 ・2015年9月、中国・大連で開催された世界経済フォーラムによる国際会議「Global Shapers Community SHAPE China 2015 Meeting」へ日本代表(U33)として参加 ・2015年10月、第31回全国硬筆コンクール(大学・一般の部)にて、全国4位へ入賞
政策・メディア研究科 修士1年	川崎 悠里子 宗像 英仁	オイル産生藻など複数の藻類のゲノム解析を行い、進化の歴史について新たな知見を発表して国際的な評価を得た。
総合政策学部4年 (代表者)	伊谷 陽祐 (代表者) 受賞団体名:サイバー防犯ボランティア研究会	・小中高校生に対し、インターネット空間の危険性について、世代の近い大学生から講義やワークショップを行う、という公益性の高いボランティア活動を実施 ・東京キョニスクラブから表彰を受けた(SFCウェブサイトの「SFCの現場」に掲載) ・全国社会福祉協議会の機関紙に掲載された ・活動内容が、毎日新聞、神奈川新聞、上毛新聞に掲載された ・来年度のSFCパンフレットに、推薦する学生及び研究会活動が掲載される予定 ・活動内容の詳細については、研究会ウェブサイトも参照(http://cyberlab.sfc.keio.ac.jp/)
総合政策学部4年 (代表者)	大庭 広明 (代表者) 受賞団体名:田中浩也研究会 「3Dプリンタとデジタルファブリケーション (キャンパス編)」番組作成プロジェクト	第一線の大学教授が無料オンライン授業を展開する「MooCs」のひとつであるNTTのGaccoというサービスで、はじめて「大学生チームのみ」でつくった教育番組(「デジタルファブリケーションと3Dプリンタ(キャンパス編)」)を放送し、1665名の視聴者(高校生を多く含む)から反響があった。これによって、SFCにおけるデジタルファブリケーション教育の先進性を全国に伝える貢献をした。
総合政策学部4年	陣内 萌	・病気を抱えて入院している子どものサポート活動に学部2年次から取り組んできた。特に、学校教員向けのウェブサイト「EDUPEDIA(エデュペディア)」を用いた、入院児の復学支援を中心に行ってきた。 ・高校生の頃からこのサービスの運営メンバーであり、ブランド・コミュニケーション部部長としてサービスの周知・向上に努めてきた。 ・この活動の最も価値がある点は、教員の中でもリーチできる範囲が広がったところである。 ・SFC25周年記念式典で、学生代表スピーチの中で、この活動について報告し、評議員や常任理事ら多くの参列者の共感を呼んだ。
総合政策学部4年	高松 奈々	「お笑いを通じた社会問題啓発」を行うために以下のとおり積極的に活動し成果を上げている。 ・プロのお笑い芸人としてラジオ、テレビ、ライブハウス等で活躍(数々の賞を受賞) ・社会問題に関心のない若者に向けて、ニュースを面白く分かりやすく伝えるニュースライブを展開 ・本人の「たかまつなチャンネル」(YOUTUBE)において、ニュース解説動画を配信(登録者数は7,000人以上) ・厚生労働省緩和ケア普及啓発事業のキャンペーンメッセンジャーとして活動 ・清掃登山事業、富士山不法投棄の調査、ネパールで貧困問題についてフィールドワーク等々の活動
総合政策学部1年	佐藤 里咲	・2015年6月、MOS世界学生大会2015の日本代表に選出。8月の世界大会への代表権を手にする。代表選出はSFC初となる快挙となった。 ・2015年8月、MOS世界学生大会2015のWord2010部門で世界第4位という日本人過去最高位の入賞を果たす。
環境情報学部4年【代表者】	永由 裕大 (代表者) 受賞団体名:池田靖史研究会 &長谷部葉子研究会合同 「鹿児島県口永良部島プロジェクト」	・地方創生の域学連携での取り組みにおける大学生が当事者として主体的に取り組むモデル ・地域行政、地域住民との持続可能かつ「協働」をもたらす関係性構築のプロセスモデル ・2015年口永良部島新岳大噴火、史上初の警戒レベル5の大災害により、全島避難命令という状況下での過去6年間の関係性に基づいた島民との等身大の大学生としての復興支援の取り組み ・大学生ならではの地域との取り組み、域学地域連携を促進させる関係性構築のプロセス事例 ・地方行政(町役場)、島民の生活基盤の両方に6ヶ月・1年間単位で大学生が現場に所属し、現場からの地方創生への取り組み
看護医療学部4年	船田 茉佑	・看護医療学部の学部生が、看護学とは直接関係ない、自分自身が知りたい事を対象に、学部の外のスポーツ医学研究センター(日吉キャンパス)と共同で行った研究である点 ・リサーチクエッションの設定から実験計画の立案、分析、考察まで、殆ど自分一人で行った研究である点 ・メガネ型ウェアラブルセンサーと動画を用いて、バレーボール動作の解析が可能である事を証明した点 ・基本的なアンダーハンドレシーブにおける初心者と熟練者の差を客観的に数値で示す事によって、初心者のパフォーマンス向上へのフィードバックを行った点
看護医療学部4年	茂木 麻依	・看護医療学部の学部生が、看護学とは直接関係ない、自分自身が知りたい事を対象に、学部の外のスポーツ医学研究センター(日吉キャンパス)と共同で行った研究である点 ・リサーチクエッションの設定から実験計画の立案、分析、考察まで、殆ど自分一人で行った研究である点 ・メガネ型ウェアラブルセンサーと動画を用いてダンスパフォーマンスの解析が可能な事を証明した点 ・ビルエットというダンスのターンにおいて、自分でも気づかなかった自分の弱点を研究を通して新たに見つけ、自身のパフォーマンス向上に結びつけるという具体的な成果を上げた点
看護医療学部3年	牛之濱 静香	タッチフットボールの全国大会 第24回プリンセスボウル(於・神戸王子スタジアム)に出場し、大会のベストメンバーに選出され表彰された

2014年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士1年	石井 千晴	マレーシアで開催された国際学会「International Conference on Beneficial Microbes」で優秀ポスター賞受賞
政策・メディア研究科 博士1年	西山 勇毅	IEEE 16th International Conference on E-health Networking, Application & Services (Healthcom'14)でのBest Paper Award受賞
政策・メディア研究科 修士2年	中野 理穂	・国際会議APCCM2015研究論文発表と国際会議論文発表3件、および国際ワークショップにおける研究発表1件 ・実用的マルチメディア・システムの構築と実証実験
総合政策学部 4年	大木 千加	・SFCの広報に登場し、SFCに貢献 ・ヨルダン等におけるフィールドワークを通して「水資源事業」を通した平和構築の可能性について考察し、その成果を以って申請した米国務省主催の国際ワークショップに日本代表として選抜された。

所属	受賞者(代表)	受賞内容
総合政策学部 4年	佐藤 優希	・第18回日本成人先天性心疾患学会(2015年1月)で筆頭著者として、第50回日本小児循環器学会(2014年7月)で第3共著として発表 ・科学研究費補助金「成人医療へ移行する先天性心疾患患者に対する教育支援ツールの開発とその評価」の研究チームに参加し、患者支援ツールの作成に従事 ・ORF2012、2013、湘南藤沢学会主催の「学生の研究・活動発信」において2年連続3位受賞
総合政策学部 1年	飯岡 利奈	・2014年7月に最年少でFP(ファイナンシャルプランナー)資格の頂点であるCFPに合格 ・資格合格については大学の学業と両立し、当該学期の学業成績についても高い水準であった
環境情報学部 4年	八木橋 優	・義塾およびSFCにおける情報システムのセキュリティ向上に貢献 ・2014年情報危機管理コンテスト(チーム)決勝に出場しアグレッシブ賞を受賞 ・セキュリティコンテストSECCON CTF 2013東海大会 個人優勝 ・CTF for Beginnersの運営チームの一員として日本ネットワークセキュリティ協会特別賞(2014年度)受賞
環境情報学部 4年	渡邊 仁史	・デジタルファブリケーションの世界的コンペ:You Fab Global Creative Award入賞 ・第9回レーザーコンテスト SEMI GRAND PRIZE受賞 ・デジタルファブリケーションカルチャーのWEBメディア「FabCross」に注目のクリエイターとして紹介
環境情報学部 3年	野崎 大幹	・米国の計算機科学分野の学会ACM(Association for Computing Machinery)主催の国際会議CHI2014(Conference of Human-Computer Interaction 2014)において、Student Research Competitionの学部生部門で見事3位に入賞し、銅メダルを獲得 ・これらの成果により、日本学生支援機構の優秀学生顕彰において、学術分野における大賞を受賞
看護医療学部 4年	古川 美帆	・近日中に市販開始予定の、3軸角速度センサーと眼電位計内臓メガネ型ウェアラブル計測器であるJins MEME(ジンズミー)を用いた、おそらく世界初のフィールドワークである点 ・計測機器の使い方やデータ解析の細かい点等を除き、推薦学生がほぼ単独で計画し、計測し、まとめた研究成果である点 ・震災復興の目的で福島の子ども達を支援するために設立された福島ドラゴンボートアカデミーに設立当初から自主的に参加し、そこでの活動を科学的に支援する目的で行われた研究である点 ・ウェアラブル計測器の利点を生かし、欠点をカバーする巧妙な実験計画を自ら立案し、大変きれいな結果を得た点 ・得られた結果をフィードバックすることでチームの成績向上が期待できる点

2013年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
総合政策学部 4年	土岐 珠未	「The 90th Annual Meeting of Physiological Society of Japan」において「Junior Investigator's Award」を受賞
環境情報学部 4年	石原 愛海	第35回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会東京都予選優勝(主特)、同大会最優秀選手
環境情報学部 4年	今井 樹	Web技術に関する国際学会ICIW2013にて、筆頭著者として研究論文を発表しBest Papers Awardを受賞
環境情報学部 4年	柏木 裕希	・サマー・サイエンスキャンプ2013「第34回数理の翼夏季セミナー」(数理科学に強い関心を持つ高校生を対象とした将来の数学者を育てる全国規模セミナー)の実行委員長に選出 ・活動の立ち上げの段階からの企画と運営、および、成果報告書の出版を担い、将来の科学技術を担う主力となるべき若い世代を発掘し育成に貢献
環境情報学部 4年	加藤 慶之	Web技術に関する国際学会ICIW2013にて、筆頭著者として研究論文を発表しBest Papers Awardを受賞
環境情報学部 4年	山下 真裕 M.	コンピュータグラフィクスとインタラクティブテクノロジーの世界最大規模の学会ACM SIGGRAPH 2013 Student Research Competitionにてundergraduate student部門の1st Prizeを受賞
環境情報学部 3年	諸澤 正樹	ビジネススクールとビジネスコンテストを融合させた学生起業家輩出プロジェクトKBB(K-POWERS BUSINESS BRAIN)に参加し(4期生)、Final Presentation(ビジネスコンテスト)において、KBB史上初となる審査委員最優秀賞と学生審査最優秀賞の2冠受賞。プランの内容は、スマートフォンを用いた決済システムで、受賞による資金提供(1千万円)を受け、株式会社Wicrepを設立。
政策・メディア研究科 修士2年	グエン ティ ゴック ジェップ	・国際論文誌における研究成果論文発表1件、国際会議における研究成果論文発表6件、国際フォーラムにおけるポスター発表1件、国内会議における研究発表1件 ・実用的システムの構築
政策・メディア研究科 修士2年	下 英恵	日本人学生を代表して、ストックホルムで行われたノーベル賞授賞式と晩餐会に招待され出席
政策・メディア研究科 修士2年	高橋 直大	関数型プログラミング言語に関する世界最高峰の権威であるInternational Conference of Functional Programmingが主催する、ICFP Programming Contest 2013にて、隠された関数を予測する問題に取り組み、世界中から550チーム以上が参加する中、2位以下に圧倒的な大差をつけて優勝
政策・メディア研究科 修士2年	河野 通航	・コンピュータグラフィクスとインタラクティブテクノロジーの世界最大規模の学会ACM SIGGRAPH ASIS 2013 Art Galleryに入選 ・文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員会推薦作品に入選 ・エンタテインメントコンピューティング2013にて論文賞を受賞

2012年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士3年 政策・メディア研究科 博士3年	松谷 健史 空閑 洋平	Interop Tokyo 2012にて開催のオープンルーター・コンペティションにてグランプリ(さくらインターネット賞)受賞。ネットワーク機器のソフトウェアとハードウェアの開発。
政策・メディア研究科 修士2年	遠藤 忍	・社会言語学会から、第8回(JASS30)研究大会発表賞受賞 ・SPCにおいて6年間(総合政策学部4年間、政策・メディア研究科2年間)、授業以外にもキャンパスライフに積極的にコミットし、様々な場面で学生生活をリードしてきた。
政策・メディア研究科 修士2年	森 正彦	・国際会議における研究成果論文発表2件、国内会議における研究発表2件 ・実用的システムの構築
政策・メディア研究科 修士2年	三谷 宗一郎	・研究会経由でインターンを行った長野県小布施町で、町長・町役場職員を巻き込み、施策の実施まで行う会議を提案、企画、実施。実際に30以上の施策が実現に向けて動き出している。(副実行委員長の2名は、自らも事業を企画し、運営会社を設立した。)
政策・メディア研究科 修士2年	村上 慎之介	湯野浜温泉(鶴岡市)の源泉から世界最小の微生物を発見し、テレビ、ラジオ、新聞で報道された。
政策・メディア研究科 修士1年	石井 千晴	米サンアントニオで行われた国際Probiotics学会において、Student Poster部門で最優秀賞を受賞した。
総合政策学部 4年	島岡 諒	・WEB技術に関する国際学会ICIW2012にて、筆頭著者として研究論文に発表しBest Papers Awardを受賞。 ・学生ビジネスコンテストであるTRIGGER2012において、チーム代表として出場し、優勝。
総合政策学部 4年	中垣 拳	・4年間SFC初学者を対象に短期集中型のものづくりワークショップを提供し、活動の規模を拡大してきた。 ・2012年度「アート&テクノロジー東北」にてワークショップに参加した3チームすべてが優秀賞を受賞した。 ・ORFのイベントである研究・活動発表(湘南藤沢学会主催)において、2年連続で第1位を受賞した。

所属	受賞者(代表)	受賞内容
総合政策学部 4年	山口 崇行	・WFDF2012 World Ultimate & Guts Championships ミックスの部3位(銅メダル) ・WFDF2013 世界U-23アルティメット選手権大会 オープンの部選出。 ・文部科学大臣杯第37回全日本アルティメット選手権大会東日本地区予選 スコアボードリーダー(得点数+アシスト数)、得点主。
総合政策学部 4年 環境情報学部 4年	森 裕紀 大川 晴	・世界最貧国といわれるコンゴ民主共和国で、平和構築活動としてアルティメットを導入。コンゴ民主共和国では未知のスポーツ、アルティメットを紹介し、国家承認(公認)のスポーツとして、小・中・高・大学の全教育課程に普及させ、指導した。また、国家規模でのアルティメット大会を企画・運営・開催し、国営テレビで放映され評価された。 ・現在、コンゴ民主共和国国内全域への普及活動を始めている。
環境情報学部 4年	中島 明日香	国内外の情報セキュリティ技術を競うコンテストにて受賞(国内最大大会Haedening Zeroにて優勝、チームリーダーを務める。第二大会のHardening oneにてグランプリをチーム受賞)
環境情報学部 4年	西原 由実	・IVRC2013総合優勝 ・Laval Virtual賞 受賞
環境情報学部 4年	中山 茜	・体育会サッカー部女子主将として第32回東京都女子サッカー1部リーグ戦で本塾を優勝に導いた。 ・東京と女子サッカー1部リーグで、前人未到の4年連続得点王を受賞した。
環境情報学部 3年	三好 真	・東京都主催学生企業家選手権にて約700人の応募から優秀賞をチーム受賞、企画立案・プレゼンにて活躍 ・日刊工業新聞主催キャンパスベンチャーグランプリにて、約100人の応募から優秀賞をチーム受賞、企画立案・プレゼンにて活躍 ・K-powers主催学生企業家プロジェクトにて約300人の応募から最優秀賞を個人受賞 ・(株)アイグロー主催大学生 OF THE YEARにて約1800人の応募から、ビジネス部門にて準優勝を個人受賞

2011年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士4年 政策・メディア研究科 博士1年	ビラス ヴァンサン 林 健太郎	コンピュータシミュレーションを用いて、がん細胞の死滅を即す分子を予測し、国内外で高い評価を得た
政策・メディア研究科 修士2年	浜島 聖文	遺伝子暗号の解読システムの“例外”を発見し、国内外で高い評価を得た。
政策・メディア研究科 修士1年	辻 航平	①ACE 2011,Creative Showcase & Interactive Art Track, Gold Award 受賞 ②SIGGRAPH ASIA 2011, Emerging Technologies 採択 ③ASIA DIGITAL ART AWARD 2011 入選 ④インタラクション 2011、2011年3月10日、インタラクティブ発表賞
政策・メディア研究科 修士1年	加崙 長門	国際学会(データベース分野)にてBest Student Paper Award 受賞(筆頭著者としてフルペーパーでの国際論文発表)(1件) 国内学会にて筆頭著者として発表(2件)
政策・メディア研究科 修士1年 環境情報学部 2年	遠藤 忍 鶴田 浩之	①プロジェクト「Pray for Japan」の取り組み ②その他 鶴田君はInfinity Ventures Summit 2011 Fallで行われたLaunch Padプレゼンテーションで優勝、遠藤君は「リアル熟議」を運営するなどSFC制の模範となる活動を積極的に進めている。
総合政策学部 4年	笠松 亮太	4年間文武両道を体現し、最上級生としてサッカー部を引っ張り全日本大学選手権に出場して3位に入賞した。(サッカー全国3位に導いた4年生)
総合政策学部 4年	遠藤 ちひろ	・ダッカ大学の学生と教育学生団体「SWITCH CREATIVES」を創設、Bangladesh版13歳のハローワーク・フリーマガジンを発行。Bangladeshの子供たちの大きな夢を描くメディアとしてBangladesh国名の新聞3紙にとりあげられた。
総合政策学部 4年	松村 佳奈	・「プレゼンテーション・パターン」が、ニュースサイトで紹介されたほか、ソーシャルブックマーク、twitter等で大きな反響を呼んだ。(プレゼンテーション・パターン・プロジェクト) ・プレゼンテーション・パターンをはじめ、ワークショップ等も話題となり新聞で紹介された。
環境情報学部 4年	山本 優理	第31回キャピラリー電気泳動シンポジウム(SCE2011) 最優秀ポスター受賞
環境情報学部 4年	野中 祥平	①書籍『中学生の勉強あるある、解決します。』の出版 ②ブログ『中学生・高校生のあるある研究所』の執筆 ③新聞、雑誌等の各種メディアで紹介された。
環境情報学部 4年	佐藤 友紀	①物理的なモノに貼付した無線タグに情報を分散して書き込むことで、“そこにはないモノ”を特定する技術を世界で初めて実現した。 ②高い競争率の国際学会(IEEE RFID)に2年連続で採録された。 ③国際的に著名な学会誌(IEEE Transactions on Automation Science and Engineering)にregular paper採録決定
環境情報学部 4年	下 英恵	①血液学の国際論文誌に掲載され、その分野の第一人者から「革命的」と賞賛された ②平成23年度日本学生支援機構優秀学生顕彰学術部門で大賞受賞 ③高い英語力を持ちTOEICで満点を獲得した ④体育会剣道部に4年間所属し、文武両道を体現した
総合政策学部 3年	中垣 拳	第19回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテストにおいて、総合優勝をはじめ Laval Virtual Award、未来観客賞、DEXPO/ConTEX受賞(チームアシカくん)
環境情報学部 3年	鈴木 あい	財団法人公共政策調査会等の主催する「平成23年度懸賞論文 地域社会の安全をいかに守るか」において最優秀賞を受賞した。
環境情報学部 2年	中安 恒樹	自らの研究成果を活かし学内外の各種Webサイトで動作するプログラムのセキュリティに関する脆弱性を大量に発見し通報、インターネットセキュリティの向上に貢献した。

2010年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士2年	菅原 潤一	ホーム「科学技術への顕著な貢献2010(ナイスステップな研究者)」に選定
総合政策学部 4年	深井 晴香	国際学会(マルチメディアデータベース分野)にて筆頭著者としてフルペーパーでの国際論文発表(2件) 国内学会にて筆頭著者として発表
総合政策学部 4年	宮島 昇平	芸術的に質の高いドキュメンタリーシネマを制作
環境情報学部 4年	田中 美穂	文武両道の体現 * 女子タッチフットボール部の主将としてチームを全国3位に導いた * バイオ燃料の研究成果をオランダの国際学会で発表した

所属	受賞者(代表)	受賞内容
環境情報学部 4年	平賀 俊孝	第1回大学・専門学校対抗 日本カーデザイン・コンペ 最優秀賞受賞(電気自動車研究室デザイングループ TOKYO EV TAXI Project Team) TOKYO EV TAXI Project Team)
環境情報学部 4年	山岡 潤一	第18回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(チーム・キメラ) 日本VR学会賞・DCEXPO ConTEX賞 受賞 2010アジアデジタルアート インタラクティブアート部門 入賞
環境情報学部 4年	次田 尚弘	「和歌山さんぽみちプロジェクト」の継続的展開 「第12回近畿コミュニティ放送賞」受賞
環境情報学部 4年	大木 洵人	2010年度 グッドデザイン賞 受賞 2010年度「学生ビジネスプランコンテスト」 アイデア賞受賞
総合政策学部 3年	池田 俊	GlobalTiC Talentpreneur Award2010 「Textile Innovation Award」を授賞(Art Jaquet)
総合政策学部 3年	本郷 愛実	WABAコースパンフレットを和訳・作成・発行 「第5回医療の質・安全学会学術集会」にて研究成果を筆頭著者として発表
総合政策学部 3年	神野 翔	「愛媛リアル熟議9.4」を主催し、多大な実績を残した

2009年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士4年	紙 健次郎	癌細胞と回虫が同じ呼吸法をしていることを実験で明らかにし、“虫下し”が癌の治療に効く可能性を示した。
政策・メディア研究科 博士3年	今見 考志	ナノテクとバイオを融合させ、細胞内の情報伝達を解析する革新的技術を開発し各賞を受けた。
政策・メディア研究科 博士1年	菅原 潤一	第9回バイオビジネスコンペJAPAN最優秀賞
政策・メディア研究科 2年	生天目 直哉	センサネットワークのデータストリームを共有するためのプラットフォームであるSensingCloudを提案、“分散センサネットワークのための透過的アクセス”、“メタ情報を利用したデータアクセス”、そして“規模に応じた自律的スケールリング”を可能とするシステムアーキテクチャを設計・実装し、修士論文にまとめた。内外の発表で評価を得ている。
総合政策学部 4年	トランティ 美佳	地雷除去のためのスポーツイベント活動、茅ヶ崎市とのライフスキルプログラム実施、未来創造塾(ハウス)の活動基盤を確立
総合政策学部 4年	下西 風澄	「カオス」という数理現象を可視化する新しい手法を発見し、その「科学的研究」と「芸術的活動」の両方を行って、学外研究者やプロの芸術家と結成したグループで、音楽と映像を融合させた様々な活動をしている。
総合政策学部 4年	昼間 貴宏	動画像データベースを用いた企業広告戦略の分析・評価システムを実現、論文の筆頭著者として国際学会で発表
環境情報学部 4年	野島 沙樹	論文;Effect of skin lotion perfume on building an attachment for the lotion for during continuous useが、パリで開催のコンファレンスで厳しい審査後、採択された。
環境情報学部 4年	次田 尚弘	まちの魅力をクロスメディアで伝え交流する「和歌山さんぽみちプロジェクト」の展開他
環境情報学部 4年	赤瀬 翔子	未来創造塾(ハウス)立上の主要メンバーとして活動の基礎を築いた、また、茅ヶ崎市と藤沢市とのライフスキルプログラムの作成、実施。
環境情報学部 4年	伊藤 妃実子	新しく会社を立ち上げその経営にあたり、ビジネスコンテストでの部門入賞、自身の経験を生かしたビジネスケース教材の開発、その実践と研究により活動が広く社会で評価されている。
環境情報学部 4年	三宅 桐子	「SFCらしい学び」を実現するための冊子、「Learning Patterns:A Pattern Language for Active Learners at SFC2009」を制作し、学内外での広がりを見せ、評価されている。
環境情報学部 4年	熊坂 瑠子	アニメーションを用いた漢字補助教材を開発し、学会発表で評価を得た。日本語学習者にも利用され応用が広がっている。
総合政策学部 3年	加藤 文彦	KBC実行委員会、学生が起業を志す際の支援体制を作り上げた。KBC Brand-New Challengeとコンテストを開催、支援したプログラムが世界15大学からの応募中、一位になる。
総合政策学部 3年	緒方 伊久磨	ひたちなか海浜鉄道の施設を用いたメディアアート展の開催による地域活性プロジェクトの実施
環境情報学部 3年	大木 洵人	さまざまな形での手話の普及活動での成果
総合政策学部 2年	鈴村 沙織	子宮頸ガンの予防および検診受診に関する啓発活動を推進する「リボンムーブメント」を結成し、冊子の作成・配布、シンポジウム開催等の積極的な活動が国や自治体等から高い評価を受けた。

以 上